

留学先からの報告

2017/12/03

The Scripps Research Institute

荻田譲

気づけば今年も終わるというのに、特に目立った進捗もない、実験以外のことも特段していないと、報告書に書くことがないということで報告書の提出を先延ばしにしておりました。途方に暮れるものの、報告書のネタも特に特に思いつかず実験にかまけていると、提出締め切りの直前に望んでいた鍵反応が成功しました。今まで一年間かけて三つの合成ルートを試し、うまくいかなかったステップにやっと現状打破の兆しが見えてきました。この後目的の分子の合成に必要な変換は今まで成功させてこようとしてきた二つの反応に比べれば、難易度も比較的安く、先行文献も豊富にあるのでできる限り早く合成を完了させたいです。この後もどこに落とし穴があるかわかりませんが、一ヶ月前に比べると状況は非常によく、個人的にもモチベーションが上がってきました。

また、ちょうど先週はグループミーティングの発表担当だったのでそのことについて書こうと思います。バラ研は、全体での研究進捗報告会というものがありません。研究室のメンバー全員がお互いに研究の話をし、お互いがどんなテーマで、どんな戦略で、どのようなことを成し遂げようとし、現状どのような問題に直面しているのか把握していることが期待されているからです。もちろん、取り組んでいるプロジェクトがかなり異なるため、全体に発表しても、時間に見合うだけの有益なアイデアが出にくいという理由もあると思います。そのため、全体で行うグループミーティングは全て文献調査です。ローテーションで三人が発表にあたり、一人目が最新の論文紹介（15-20分程度）、二人目があるテーマについて包括的な文献調査をして発表（2時間程度）、最後に三人目が反応機構の問題を皆に出してグループミーティングが終了です。もちろん一番の山場は二人目の文献紹介で、先週これの四回目を終わらせました。テーマはボスから与えられることも自分から提案することもあります。何かしら自分の研究テーマに関わっていることが多いです（今回自分は桑嶋功先生のキャリアレビューをしました）。準備には一週間かけることが許されているので、その期間は図書館とパソコンの前を行ったり来たりしてテーマに関わるありとあらゆる文献を読み漁ります。準備に一週間もかけた二時間のプレゼンをするので、テーマについて包括的であり、ボスを含めた研究室メンバー全員をそのテーマについて“教育する”ことが求められています。今日までのグループミーティング資料は全てホームページに保存されており（<http://baranlab.org/research/seminars/>）、本文を書けばレビューとして出版できるほどよくまとまっているものもあります。自分が知らないテーマや反応についてとっかかりを得たいときはとても有用な情報源です。

年越し前に一仕事終わらせられたので、ここから休暇までいけるとことまで行き、新年からは実験だけに専念し、できるだけ合成を完了させたいと思っています。